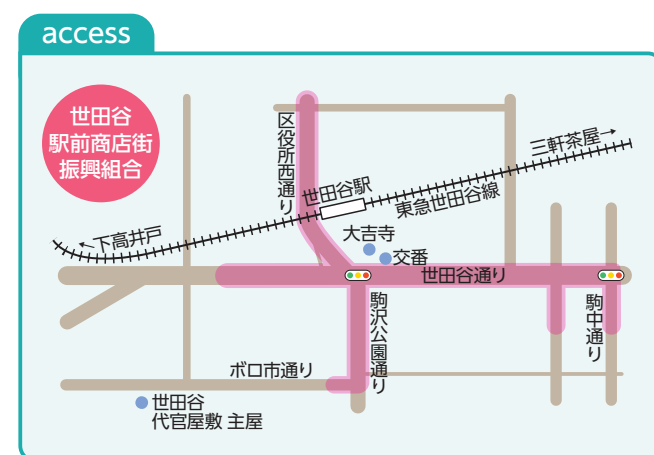




コロナ禍を機に、組織の若返りを図り 店舗同士のつながりや情報発信を強化

世田谷駅前商店街振興組合（世田谷区）



<https://setagayaekimae.com>

活用した事業

・商店街パワーアップ作戦



代官屋敷のイメージに合わせ、街路灯を常夜灯風にリニューアル。歴史情緒に富んだ街並みを演出している。LED ライト搭載で環境にも配慮。



次世代の組合活動をけん引する、理事 組合副理事長で青年部部長の二瓶徳久さんの竹内まさかずさん。広報やイベントに奔走する。

対面活動が難しいコロナ禍で 商店街の広報新聞を発行

世田谷駅前商店街振興組合は、国の重要文化財に指定されている世田谷代官屋敷のお膝元にあり、その観光資源を活かした街並みづくりに取り組んでいる。駅近くから十字に伸びるバス通りを起点に、四方に商店が広がる。

「商店街パワーアップ作戦」を活用し始めたのはコロナ禍のさなかだ。当時、組合青年部のメンバーで現理事長の竹内まさかずさんは、「コロナ禍で何をやらたらいいのか分からず、商店街がフリーズした」と振り返る。理事会が高齢化していたこともあり、今後の商店街活動の新しいアイデア出しが青年部に託され、そのバックアップに公社の支援を活用した。派遣された専門家は、商店街の広報物作成を提案。それを受けて青年部が動き、「RAKURAKU タイムス」という商店街新聞を発行した。「入ったことのないお店の様子が分かった」と反響があったという。

「街バル」の開催をきっかけに 飲食店同士の対話が生まれる

このほか、青年部では、商店街恒例の「ガラポン」に替えて「せたがや Pay」を活用した PAY ラリーを導入した。また、オンライン会議を提案するなど、新



令和6年8月、2日間にわたって初開催された街バル「楽市楽座バル」のチラシ。商店街ならではの個性豊かな飲食店が参加し、それを目当てに大勢の人が集まった。



現在3号まで発行されている「RAKURAKU タイムス」。商店街で働く人にスポットを当てたインタビューや、お祭りの歴史などを掲載し、知られざる商店街の魅力を発掘。

たな発想でできることを模索し、商店街の活性化に向けた策を打ち出していった。

コロナが終息に向かいつつある頃、前理事長が急逝。新たな理事長に、青年部での活躍が認められた竹内さんが就任することとなった。前理事長から学ぶことができないなかで、「専門家に理事会の活動について客観的な視点から助言をいただいた」という。

令和6年8月には、チケットを購入して参加飲食店の限定メニューを楽しむ「楽市楽座バル」を開催した。4年前にも開催が企画されていたものの、コロナ禍であえなく中止に。初開催となった今回は、14店舗が参加し、盛況のうちに終了した。「街バルが成功したのは専門家のおかげ。助言をいただいたことで、各店舗に対しての説明にも説得力が生まれました」と竹内さん。「個人店が多く、バス通りに分断されているので、店舗同士の横のつながりを構築するのが課題でしたが、このイベントで飲食店同士話しやすい雰囲気生まれ、組合員の意見を吸い上げるきっかけづくりができました」と手応えを感じている。

「目に見えるメリット」の提供と デジタル化による運営の効率化が課題

今後の取組として、組合では「加盟することで、目に見えるメリットが得られることが大事」と考え、世田谷駅の近くに加盟店を記載した商店街マップの掲示板を設置する予定だ。デジタル化による運営の効率化も目標に掲げ、「HP も一新し、インスタグラムやX も始めました。各店舗ともつながりをつくり、発信力を強化したい」という。「公社の支援のおかげで組合事業が着実にパワーアップしている。今後、支援を活用する方は、公社の担当者によく相談し自分たちの商店街に合う専門家を紹介してもらいたいと思います」。若手がけん引し、商店街は進化し続ける。